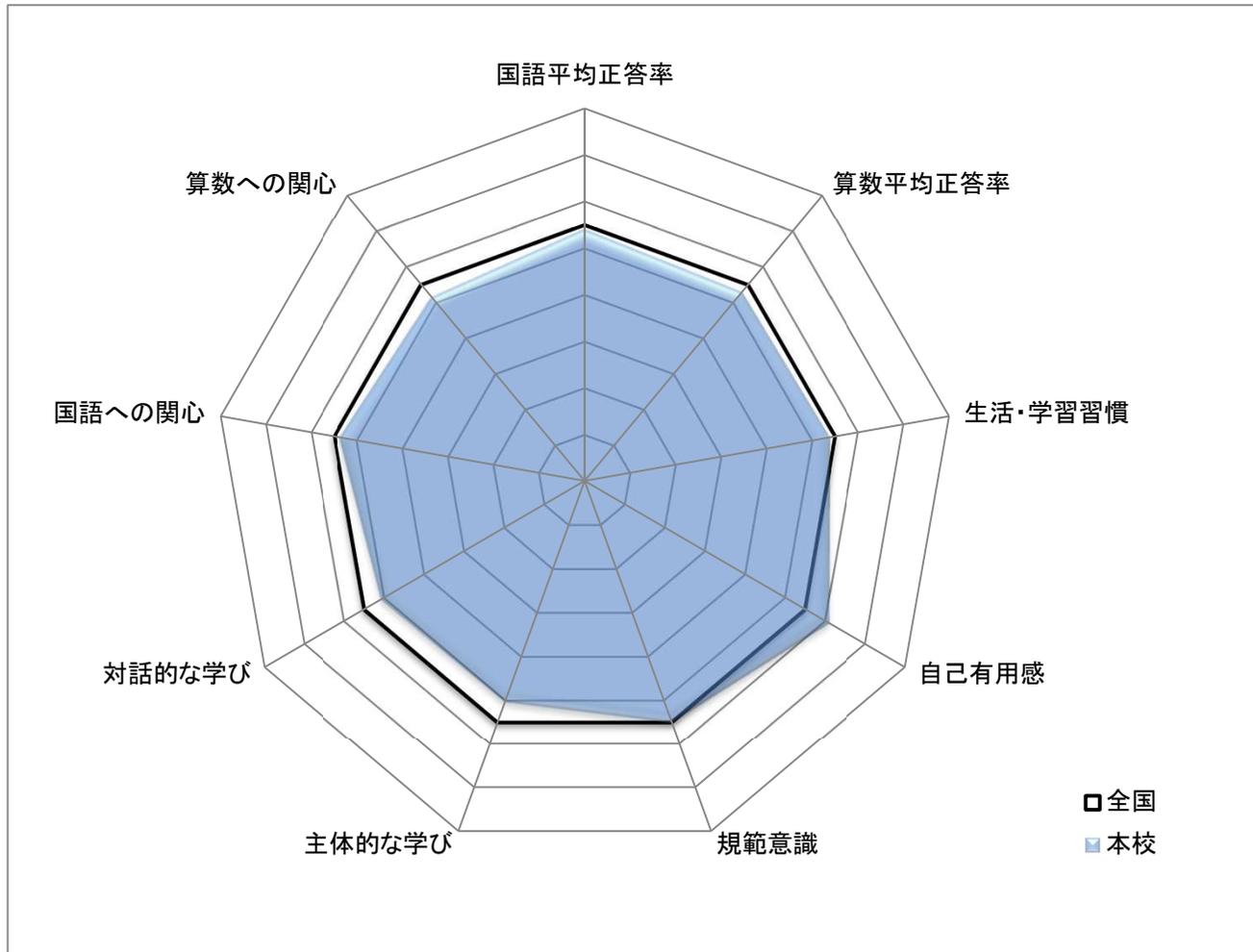


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】  
 ○「知識及び技能」情報の扱い方に関する事項においては全国平均を上回っている。また、「思考力・判断力・表現力等」の書くことも全国平均を上回っている。  
 ○「思考力・判断力・表現力等」の話すこと聞くこと、読むことは全国平均を下回っている。

【算数】  
 ○領域「図形」「変化と関係」の問題の正答率が全国平均を上回っている。  
 ○領域「数と計算」「データの活用」の問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。

《授業改善のポイント》

【国語】  
 ○話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する。  
 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えられるようにしていく。

【算数】  
 ○データの活用において、正答率がやや低かった。目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導していく。  
 ○日常生活の問題を解決するために、目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにしていく。その際、概算にする方法が適切であるかどうかを判断できるように指導していく。  
 ○1人1台のタブレット端末を授業、家庭学習ともにさらに活用していく。  
 ○業間に学習タイムを設け、ドリルパークを活用する習慣を身に付けるようにする。

《チャートの特徴》

○どの項目においても、全国平均と比べて大差はない。平均正答率は全国と比べ、国語・算数共にやや低めである。  
 ○算数への関心が、国語に比べて若干低い傾向がある。  
 ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、学習したことを生かして自分の考えをまとめたりするような、主体的な学びの姿勢や対話的な学びの姿勢が全国平均と比べてやや低い傾向が見られる。  
 ○「自分には、よいところがある」「将来の夢を持っている」などの自己有用感は全国平均に比べ、とても高い。

《家庭・地域への働きかけ》

○学習状況調査結果を通知表等の資料として提示し、家庭と共有する。家庭からも学習面、生活面についての指導の協力を仰ぐ。  
 ○授業以外でも児童が自発的に学習を続けられるよう、放課後補習教室やドリルパークを活用した家庭学習を推進していく。